

序 文

2004年2月からJVMに隔月連載でスタートし、2008年2月までの4年間、普段我々が遭遇する症例を提示してX線と超音波診断について解説を行ってきました。その後、2008年4月より2018年12月までは毎月連載となり、CTやMRI診断も取り入れ、15年間で169回となりました。実際に我々が診察した症例であるということを生かし、診断から治療に至る手順の中で、どのような目的でどのような画像検査を選択し、どのように活用したのか、または画像検査からどのような考察を経て確定診断や治療につなげたのかといった、通常の画像診断の本では載っていないような思考の流れについても解説してきました。今回、非常に長い連載期間の中から100症例を選別して1冊にしました。15年前と比べ現在では、画像診断機器が高性能化し、描出される画像の画質は非常に綺麗で高精細になりました。画質を優先すると、新しい検査機器を使用して検査された最近の症例ばかりになってしまいます。しかしながらこの本は、特徴的な画像所見を解説することだけではなく、様々な画像診断法の活用や応用についての解説も重要な趣旨としていることから、かなり過去の症例も選んだため、画質が綺麗でないものも含まれています。この点については、申し訳ありませんがご了承願いたいと思います。また、この連載では二次診療施設でも、なかなか遭遇しないようなめずらしい疾患は避けてきました。詳細が全く同一な症例に遭遇することはありませんが、この本で示された症例が普段の診療において皆様の参考になることを願う次第です。

最後に、長い間JVMに連載し、本書をまとめることになりましたが、多くの症例を我々に提供して下さった先生方、飼い主さんや動物たち、今回収載されなかった連載分も含め執筆して下さった先生方、文永堂出版の方々に感謝の意を表します。

2019年5月
茅沼秀樹